

## 『徳を積む』話

小野 みどり

購読している新聞に『徳を積む』という投稿があった。  
『徳』？宗教の話？とよぎったが、読んでみるとそうでもない。  
投稿した人は、スーパーの肉売り場で、腕を限界まで伸ばして奥のパックをとろうとする人がいると、「あー、もったいないな、せっかく徳を積む機会なのに・・・」と思う。スーパーでは、何でも一番賞味期限が短いものを選び、野菜は少し悪くなりかけているのをカゴに入れ、エレベーターは最後に降り、トイレで紙がなくなりかけていたら替え、道路に空き缶が落ちていたら拾い、店員さんやバスの運転手さんに丁寧に礼を言い、日々細かい徳を積むようにしている。その効果は抜群で、帰宅直後に大雨が降ってきたり、出かける予定のない日に電車が遅延していたり、家で思いっきり転倒した時に顔面3センチに机の角があたりする。何より大好きなアーティストのライブチケットが当たった。大満足で、どれもお金はかからないし、ちょっとした事だから続けるのも簡単という。

自己中心になりがちな今の社会で、彼女は、日常のちょっとしたゆとりとか思いやりの行為をする。それを『徳』と言い、繰り返すことを『徳を積む』と言う。クラシカルな表現が関西人らしい。特別な人が特別な行為をしているのではなく、普通の人々が公共の場でちょっと手間をかけるだけ。そして、その行為と関係があるのかわからないかわからないけれど、幸運だと思えることはその効果と考える。考え方次第で、幸せになれることも教えてくれる。日本人ならではの感性もあるかもしれない。ユーモラスで優しい投稿だった。

さっき、外に出た。道の脇にペットボトルが落ちているのが目に入った。拾って『徳を積む』チャンス到来！

しかし、ゴミ袋も手袋も持っていない。今拾っても困る。『徳を積む』には、それなりの準備がいるのだ。

